

# 【小施策評価(平成30年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	交通政策課
施策	27	交通環境の構築	評価 責任者	富樫 正幸 内線 2760
小施策	27-2	公共交通機関の利便性向上と利用促進	評価 シート 作成者	藤原 司 内線 2761

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
公共交通の利用者数は、ピークの時に比べ少ない状況にあることから、公共交通を維持・確保していくために、引き続き、利用促進に向けた取組を推進する必要がある。	快適で利用しやすい公共交通環境を構築し、マイカーからの転換を促進させるために、バスの走行環境・バス待ち環境の改善や利便性の向上を図るほか、鉄道の利用環境の整備を進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
各交通手段 市民	公共交通(バス・鉄道等)の利便性が向上する。 公共交通(バス・鉄道等)を利用する。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移					実績の評価																	
					成果点	成果の要因分析																
指標① 1日当たりのバス・鉄道利用者数	単 位	目指す方向																				
	人	↗																				
当初値 (H25)	71,962	R1目標値	74,400	R6目標値	74,600																	
<table border="1"> <caption>1日当たりのバス・鉄道利用者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値 (H25)</td> <td>71,962</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>76,192</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>75,191</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>75,309</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>75,829</td> </tr> <tr> <td>R1目標値</td> <td>74,400</td> </tr> <tr> <td>R6目標値</td> <td>74,600</td> </tr> </tbody> </table>							年度	利用者数	当初値 (H25)	71,962	H27	76,192	H28	75,191	H29	75,309	H30	75,829	R1目標値	74,400	R6目標値	74,600
年度	利用者数																					
当初値 (H25)	71,962																					
H27	76,192																					
H28	75,191																					
H29	75,309																					
H30	75,829																					
R1目標値	74,400																					
R6目標値	74,600																					
			<ul style="list-style-type: none"> <li>バス路線の維持・確保が図られた。</li> <li>ノンステップバス導入事業費補助金では、平成23年度の制度開始以来はじめての補助申請があり、交付の実績となった。</li> <li>市内路線バス対象の「まちなか・おでかけバス」と、IGRいわて銀河鉄道対象の「玉山地域列車でおでかけきっぷ」により、公共交通の利用促進を図った。「まちなか・おでかけバス」は利用者が増加している。</li> <li>「まちなか・おでかけバス」について、平成29年度に販売枚数が1万枚を超え、その分の補助金がなかったことや、実態としてかなり割安なバスとなっており、事業者側の負担が大きくなっていることから、制度を存続するため、これまで見直しの検討やバス事業者等との協議を行ってきており、1万枚を超えた分にも補助金を出すよう補助額上限の見直しを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域生活交通路線維持費補助金により、赤字バス路線について、バス事業者に対し、県と沿線市町とで協調補助することにより、路線の維持が図られた。</li> <li>高齢化などからバリアフリーのため、ノンステップバスの需要が高まっていることや、制度の周知が図られたことによる。</li> <li>まちなか・おでかけバス事業補助金により、「まちなか・おでかけバス」事業と「玉山地域列車でおでかけきっぷ」事業を実施する各交通事業者に対し補助を行った。「まちなか・おでかけバス」の利用者増加は、バスが割安でお得なことから、70歳以上の住民のニーズを捉えているものと推察している。</li> <li>「まちなか・おでかけバス」について、平成29年度後期販売時に行った利用実態アンケート調査により、利用回数などを把握し、バス1枚あたりの価値が把握できたことにより、見直しの検討を定量的に行った。</li> </ul>																		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>広域生活交通路線維持費補助金では、平成30年度で一部路線の経路廃止等による補助金交付額の減少があるものの、増加となる路線もある。</li> <li>まちなか・おでかけバス事業補助金では、1万枚を超えた分にも補助金を出すよう補助額上限の見直しを行ったが、利用実態に合わせた販売額の検討や財源の確保が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域生活交通路線維持費補助金では、複数の市町村にわたるバス路線全体の赤字額を、関係市町村の路線距離であん分し補助する制度となっているため、バス利用が少ない他の市町村の区間の分も、一部、当市で負わざるを得ない状況となっている。</li> <li>まちなか・おでかけバス事業補助金では、市内路線バス対象の「まちなか・おでかけバス」の事業実施当時の高齢者人口、バスの購入率及び利用状況等が変化していることに加え、事業者側の負担が大きくなっている。</li> </ul>																		
問題点			問題の要因分析																			

## 今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>★…R1年度着手済または着手予定</li> <li>☆…R2年度以降の着手を検討</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 引き続きバス利用促進についてPRを実施していく。</li> <li>★ まちなか・おでかけバス事業補助金では、市内路線バス対象の「まちなか・おでかけバス」について、制度を存続させるため、引き続き見直しを行っていく。</li> <li>★ 広域生活交通路線維持費補助金については、「バス路線の今後の有り方検討会」において、需要に見合った路線の見直し等バス事業者及び岩手県と協議するとともに、地域公共交通網形成計画に基づき、路線バス運行の効率化を図るため、路線網の見直し・再編について検討していく。</li> </ul>	